

藤

名にしおう江戸の縁の色濃く浅く
染めて豊けき空の花

春日の森の 木々に添う

姿もあれば三井の庭くねる枝にも馴れて咲く

幾重の房のゆんらりゆらり

なびく風情は女男の波

その藤波のいくかえり

寄せて果てなき代々の春

許しの色の沙汰も目出度し